

## 記 事

### ◎通常総会

昨年大阪で開催された後を受けて本年度は再び東京に帰り、昭和27年5月24日定刻よりやや遅れ午後1時20分より早稲田大学法文系大学院講堂において行われた。会の次第は次の通りであつた。

昭和26年度事業報告 富樫総務部長

昭和26年度決算報告 西松経理部長

(いづれも別掲参照)

名誉員推挙 大西会長より前会長草間偉、前主事丹治経三両君の名誉員推挙がはかられ、満場拍手をもつて賛同、直ちに両君に対し大西会長より推挙状が授与された(別掲参照)。

昭和26年度土木賞授与 土木賞委員会の吉田委員長より委員会の経過についての説明、並びに別掲の如く授与理由の朗読があり、大西会長より学会賞2名、奨励賞2名に対し賞状授与が行われた。

新任役員紹介 大西会長より27年度新任役員の紹介が行われた(別掲参照)。

会長講演 (別掲)

午後2時10分総会をどこおりなく終了、出席者は約200名であつた。

写真—1 通常総会会場



### ◎通常総会有志懇親会

通常総会、講演会(第1日)に引き続き、24日定刻よりやや遅れ午後6時30分より早稲田大学大隈会館で行われた。立花副会長まず会員を代表して大西前会長を送り、稲浦新会長を迎えることばを述べれば、大西前会長、稲浦新会長よりそれぞれ辞任と就任の挨拶があり会食に入る。出席者約110名は古老より新鋭に至るまで学会の名によつて結ばれた力強いきづなに限りなく幸福を感じながらビールのコップを傾ける。デザートコースに入り、地元早稲田大学の伊原理工学部長を皮切りに、草間、丹治両名誉員が学会創立当時の思い出話を語つた。更に福田新副会長及び本日晴れの土木賞受賞者を代表して丸安、田中両氏の挨拶があり、

続いて石川中部支部長、九大松尾、早大青木、京大近藤、東大国分、京大石原の各教授、長老の丹羽、那波両名誉員等のおののテーブルスピーチを行い満場の喝采のうちに8時散会した。

写真—2 懇親会場



### ◎第8回年次学術講演会

通常総会に引き続き2時30分より同会場で年次学術講演会(第1日)が開催された。本年度初めての試みとして土木賞受賞者4氏の講演が行われ、ついで見学会で視察を予定している五十里ダムの概要、更に3月北海道に発生した十勝沖地震についての現地報告が行われた。最後に特別講演として早稲田大学文学部河竹繁俊教授より歌謡伎に廻り舞台が出来た時の話があり、更に講演終了後会場近くの早大演劇博物館を参観したが、我々素人にも誠に興味を惹くものがあつた。

第2日25日は午前8時30分より早稲田大学2号館法学部教室において、5会場に分れて行われた。各会場の部門及び司会者は次の通りである。

第1会場(応用力学、都市計画、衛生工学)

講演数: 23

司会者: 後藤正司、岡本舜三、最上武雄、石川栄耀

第2会場(土質工学、道路工学)

講演数: 23

司会者: 星基和、当山道三、兵藤直吉、三木五三郎

第3会場(水理学、河川工学)

講演数: 22

司会者: 米元卓介、米屋秀三、本間仁、井口昌平

第4会場(橋梁及び構造物、鉄道)

講演数: 21

司会者: 八十島義之助、平井敦、奥村敏恵、青木楠男

第5会場(コンクリート、測量、発電水力)

講演数: 22

司会者: 丸安隆和, 国分正胤, 佐島秀夫, 高畑政信

晴天に恵まれ熱心な聴講者が早朝から集まり, 各会場とも平均 40~50 名程度であつた。定刻午後 5 時 30 分全講演を完了, 誠に有意義な 1 日を終えた。

### ◎見学会

總會, 年次學術講演会に続いて, 恒例の見学会が 26, 27 の両日にわたつて行われた。見学会の申込者は極めて多く, 300 名以上になつたが結局 112 名が参加した。申込んで参加出来なかつた会員諸士には誠に申訳ない次第であるが, 車輛, 宿舍等の関係で止むを得なかつたのは遺憾であつた。

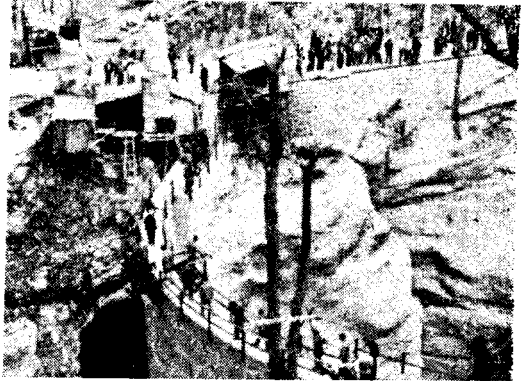
26 日東京方面からの参加者は午前 7 時 30 分浅草雷門駅に集合, 東武電車の御好意により増結されたロマンスカーにより出発, 10 時 55 分鬼怒川駅着, 既に待ち合せしていた一行と合流した。予定より 30 分早く 11 時 10 分ハイヤー 3 台大型バス 3 台に分乗して川治に向つて出発, 新緑の色濃い栃木の山々の風光を賞でながら自動車に揺られること約 1 時間, 正 12 時川治温泉柏屋ホテルに到着した。昼食, 小憩後再びバスに分乗して五十里ダムに向う。薄曇りの空は暑からず寒

写真-3 五十里ダムの一行



からず絶好の見学日和。建設省五十里工事事務所で荒井所長から工事概要を説明して頂いた後, ダム建設地点の現場視察を行う。工事は締切工も完成し, バッチャープラント, セメントサイロ等の据付も終り, いよいよ今年の秋よりコンクリート打ちが始められる由。現在表土剝離作業が行われていた。ダム高 112 m, 有効貯水量 4500 万  $m^3$  と云う大工事だけにその段取も規模が大きく, 説明を伺うまでもなく各処に現場関係

写真-4 五十里ダム締切工見学



者の御苦労が察せられる。ダム地点より更に上流にある布坂山の山頂に準備された骨材篩分設備を見学, 更に上流の骨材採取所海跡までトラックで向う。骨材採取のために設置されたタワーエキスカベーターや, ここから骨材篩分設備, ダム地点を結ぶ索道を見ては建設機械の有難さを痛感させられる。

見学を終り柏屋ホテルに帰還したのが午後 5 時 30 分予定より 1 時間も長く細部にわたつて熱心な見学であつた。

写真-5 同上



定刻よりやや遅れ, 同ホテル六広間で懇話会が開かれた。堤栃木県副知事地元を代表して丁寧な歓迎の挨拶を述べ, 稲浦会長は一行を代表して県並びに地元関係の諸会社に対し厚い感謝のことばを述べた。後はその日の疲れを酔いに癒して……。

翌 27 日, 朝より厚い雲が垂れ下り関係者を心配させる。朝食を終えて再びバスに分乗, 9 時宿舎を出発して日光に向う。途中所野大谷橋で下車, 橋上で東京電力所野第三建設事務所の高橋所長より第三発電所建設の説明を伺いながら建設地点を遠望する。大谷川より約 2400 m の隧道により約 48 m の有効落差を保ち年間 3380 kWh の電力を得ようとするもので来年 2 月末までには完成の由。この頃より雨が降り始めた。

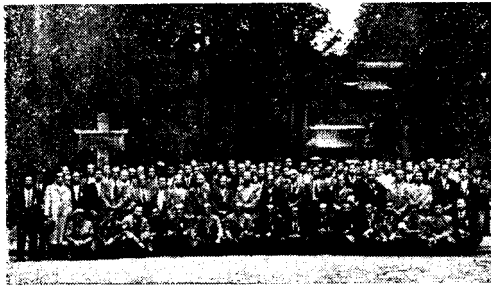
10 時 20 分所野発, 日光町を通過して細尾の古川鉱業日光発電所に行く。発電所の拡張工事について高橋

氏より説明して頂いたが、明治 39 年に建設したままの現発電所では全水量を消化し切れないため、発電所、隧道、鉄管等を拡張して約 8800 kW の発電量の増加を計ろうとするもので秋の終りまでには完成したいそうである。生憎の雨で現場視察を十分に出来なかつたのは残念であつた。

11 時 40 分発電所を出発、古河電工日光精銅所に到着、同所食堂で中鉢所長より同所の事業内容を説明して頂く。昼食後一行は数班に分れて工場視察を行う。土木とは深い関係のある銅、アルミニウム等の精練加工の工場作業を視察して今更ながら認識を深めることが出来た。

2 時 30 分精銅所発、東照宮に向う。折からの五月雨にも拘らず東照宮は学生等の団体が相当混雑してい

写真-6 東照宮前で記念撮影



た。3 班に分れて参観、陽明門を始め多くの豪華な建築物が雨に煙る杉木立に映えて一きわ美しさを増していた。

4 時 30 分東武電車日光駅前で解散、東京方面に帰る人達は 5 時 10 分発のロマンスカーで帰京した。

◎第 12 回理事会 (昭.27.5.6) 出席者：大西会長、富樫、坂本、西松、本間、米元、高畑、樺島、丸安の各理事。協議事項：(1) 次期理事候補者について。(2) 名誉員候補者について。(3) 米国技術百年祭への代表として福田武雄 (日本学術会議代表)、安芸篠一、岩井重久 (渡米中)、村幸雄の 4 氏を推薦すること。(4) 橋梁構造工学会議への代表として福田武雄 (日本学術会議代表)、仁杉巖の 2 氏を推薦すること。(5) 関東地区常議員改選投票の開票日を 5 日 20 日とし富樫理事立会のこと。(6) 定例常議員会を 5 日 23 日開催のこと。(7) 第 2 回応用力学連合講演会 (JSC の主催) の幹事学会が造船協会と土木学会とに決定したので講演委員会を設置し最上武雄、岡本舜三、本間仁、奥村敏恵、後藤正司、林泰造、久保慶三郎の諸氏に委員を委嘱すること。(8) 第 8 回年次講演会講演委員を委嘱して当日の司会をお願いすること。(9) 昭和 27 年夏季講習会は建設機械化協会と共催で、土木機械とすること

とし各講師を委嘱し詳細は 5 月 30 日協議のこと。(10) 昭和 26 年度事業報告及び決算報告案承認。(11) 規則第 16 条第 4 項中部地区より福井県を削除し、第 5 項関西地区に福井県を追加することを両支部から申出があつたので、これを認め規則改正を常議員会に提案すること。(12) サベージ博士文獻 Reprint は慎重に研究の上予約募集すること。(13) 昭和 27 年度文部省科学研究費配合について吉田、石原両氏から協力方依頼があつた。(14) 昭和 27 年度関西支部部長武居高四郎君に決定委嘱方の申出があつた。(15) The Library of Congress (米国) から土木学会誌寄贈方の申出があつたのでこれを了承。(16) 会員入退会承認。

◎定例常議員会 (昭.27.5.23) 出席者：大西会長、立花副会長、佐々木、立花、当銀、長浜、藤野、宮崎、八十島、山田、藤村、比企野、篠原の各常議員、委任状 27 通、計 40 名、全員 50 名に対して過半数により常議員会成立。那波、国沢、安芸の各名誉員、三浦前会長、富樫、坂本、西松、今岡、樺島の各理事。協議事項：(1) 昭和 26 年度事業報告 (富樫理事説明) 承認。(2) 昭和 26 年決算報告 (西松理事説明) 承認。(3) 昭和 27 年度会長、副会長、理事 5 名の選挙投票を開票の結果当選者次の通り。会長 稲浦鹿蔵、副会長 福田武雄、理事 岡本舜三、佐島秀夫、坂本信雄、中島重雄、櫻修仁。(4) 規則第 16 条第 4 項中部地区より福井県を削除し、第 5 項関西地区に福井県を追加することを承認。報告：(1) 昭和 26 年度土木賞授賞者。(2) 総会に推挙する名誉員候補者 (別項)(3) 関東地区常議員改選結果報告

#### ◎各種委員会

1. 編集委員会 (昭.27.5.19) 出席者：本間、米元正副委員長、小西地方委員 (代石原) 丸安、脇沢、川口、西村、神谷、後藤、安部、平井の各委員。協議事項：(1) 会誌及び論文集の進捗状況報告。(2) 寄稿論文及び新規論文の審査委員の決定。(3) 第 37 巻第 7 号の登載論文を次の通り決定。金原弘：国鉄信濃川発電所真人沢水路橋について。丹羽義次：堰堤内部応力の算定について。大野諫：曲梁の剪断応力度及び半径方向の垂直応力度に対する新公式。山内豊聰：土の粒度分析に於ける化学的分散処理について。伊藤和幸：現場コンクリートの強度試験に必要な供試体の箇數決定について。須之内文雄：我国土木技術者の反省と将来。ダムの設計施工についての質問に対する J.L. Savage 博士の回答。(4) 第 37 巻第 5 号の討議依頼先決定。(5) 抄録について。(6) 次期委員交代について。

2. 用語委員会 (昭.27.5.13) 出席者：福田委員長、

佐島, 星野, 当銀, 菊池, 水越(代), 扇田(代)の各委員, 久保幹事。協議事項: (1) 鉄道用語の審議の後一般的事項。(2) 次回までに訂正追加の分を取纏め完成したいと委員長の布望があつた。

3. 製図規格委員会(昭.27.5.15) 出席者: 福田委員長, 高畑, 丸安, 菊池, 深谷, 水越, 樺島(代)の各委員, 覆本, 田村両幹事。協議事項: コンクリート構造物の部について審議した。

4. 水理委員会(昭.27.5.20) 出席者: 安芸委員長, 本間幹事長, 伊藤, 佐藤, 扇田, 岩塚, 左合, 井島, 坂本, 中安, 林, 寺島, 岡田, 細井, 竹内, 岸, 水越の各委員, 石原, 永井(関西), 篠原(西部), 各地方委員, 三浦幹事及び客員として速水頌一郎氏。協議事項: (1) 水理学研究課題書作成について。(2) 日本学術会議内に水理学研究連絡委員会の設置について本間幹事長から経過報告。(3) 明年8月に米国で開催される IAHR に提出する論文の課題は本間幹事長の手許へ提出すること(本年6月1日まで)本委員会では“日本の海岸浸蝕”を推薦する事に決定。(4) 日本学術会議地球物理学研究連絡委員会陸水分科会について安芸委員長からその状況を報告。

5. 法面崩壊防止委員会(昭.27.5.20) 出席者: 最上

委員長代理, 星基, 宮崎の各委員, 八十島, 市嶋, 大場, 三木, 白石, 渡辺, 門田, 岩塚, 伊崎, 池田の各幹事。協議事項: (1) 白石俊多君を幹事に追加すること。(2) 雨量と災害との関係の統計資料について伊崎幹事説明。(3) 資料の提出, (a) AREA 線路建設示方書, (b) PRA 道路工事示方書, (c) Pen. Ry. 軌道整備心得, (d) 鉄道切取及び盛土標準示方書案 (4) 前回までの資料によつて示方書案を検討し, 各意見を参酌して国鉄で原案作製のこと, (5) 6月10~11日信越本線豊野一牟礼間 129k 300m 附近の地り状況の現地調査を行うこと。

6. 夏季講習会打合せ(昭.27.5.30) 出席者: 岡本理事(会長代理), 谷口(建設機械化協会会長), 加藤(三), 加藤(一), 齋藤, 高木, 安河内, 清水, 田中, 中村, 森, 土手, 有坂, 伊丹の各講師。協議事項: (1) 岡本理事会長に代つて挨拶の後経過説明, (2) 日時を8月20~22日とすること, (3) 場所は暫定的に東京大学とすること, (4) 講習時間割を次のようにし, 講師に村山朔郎氏を追加し“建設機械と土”と題して講演してもらうこと, 又高野務氏は渡米するとの噂もあるので谷藤正三氏に変更方交渉すること。(5) 各講師講習内容の重複を整理するため, 目次を6月10日までに

	8 30	9 30	10 30	11	12	13	14	15	16	17 30	17 30	
20日 (水) 第一日	会長 挨拶	特別 講演 (谷口 三郎)	機械化施工の 理論及び計画 (斎藤義治)		昼 休	建設機 械と土 (村山朔郎)	掘さく工法及び掘さく機械 概論 ショバル タワーエクスキャバタ (安河内春雄)					ブルドーザ (清水四郎)
21日 (木) 第二日	運搬及び運搬機械		構 造 物 の 築 造		昼 休	ダム 施工機械 (有坂誠彦)	道 路 施工機械 (谷藤正三)	トン ネル 施工機械 (加納俊二)	機械化施工 の運営及び 管理 (伊丹康夫)			
22日 (金) 第三日	映 画 及 び 見 学 準 備					見 学 A. 日立製作所総合工場 B. 東日本重工大井工場 C. 建設省モータープール D. 戸塚国道改良工事 E. 磐城生コンクリート工場及び地下鉄工事 F. 日本セメント生コンクリート工場 G. 石川島造船所						

提出して貰つて小委員会で検討する。小委員会は岡本丸安, 齋藤, 伊丹, 加藤, 高木の6氏とし, 6月12日に小委員会を開催すること。(6) 映画はパキスタンのアースダム, 沖繩の工事状況, 三河川の機械化工事, フランスのダム工事等があるが小委員会までに具体的調査をすること。(7) 見学先も更に具体的に調査を進めること。

7. 第8回年次講演会講演委員打合せ(昭.27.5.16) 出席者: 大西会長外各委員, 講演会場である早大で開催し, 講演司会要項その他詳細協議した。

◎そ の 他

1. 日本学術会議事務局長から国際計数センター(International Computation Center)をローマに設置するについて職員希望者があれば6月30日までに

推薦方照会があつた。

2. 水道協会では5月30,31両日名古屋において第3回上下水道研究発表会を開催する由通知があつた。

3. Mr. Erick Floor に講演方依頼したが Slide を使用して講演したいが6月下旬帰米して準備してから御引受けするとのことと平山氏から連絡があつた。

4. 日本学術会議から福田武雄氏を日本代表として米國技術百年祭及び橋梁構造工学会議へ派遣する旨正式通知に接した(両者事務局へ正式通告の Copy と共に)

## 支 部 だ よ り

関西支部では6月28日阪大工学部において、学術講演会を開催する由(講演数17)予告があつた。

関西支部第1回役員会(昭.27.5.30)阪神電鉄会議室(1)昭和27年度事業を次の通り決定した。

(イ)講習会 年1回とし11月初旬“水に関するもの”で開催(ロ)見学会 1. 神戸方面(8月上旬) 2. 尼崎方面(11月頃)(ハ)講演会 1. 関西支部春季学術講演会(6月28日阪大工学部) 2. 通俗講演会(11月頃三越又は朝日会館で開催する) 3. 講演と映画の会(7月初旬福井県において)

(2) 従来事業決定に基く各種の催物についてはそれぞれの実行委員会を設置してこれに当つたが、本年度においては幹事に代行せしめることに決定した。

(3) 常議員の推薦は支部長に一任のこと。

(4) 次期土木学会地方編集委員には村山朗郎君を推薦すること。

(5) 福井県の編入により商議員1名(この場合の任期は今回に限り27年度1ヶ年とする)を出すこととし定員を25名とする。このため支部内規の改正をすることに決定。

(6) 次期役員改選については今秋の役員会で検討することとし、第26回総会を来年4月上旬に開催すること。

(7) 商議員(任期26年度27年度)中欠員を次の通り補充した。玉井正彰君の後任、有本欣二君、竹中徳君の後任、野瀬正儀君。なお補充役員の任期は前任者の残任期間とする。

幹事の欠員には成岡昌夫君が就任と決定した。

(8) 次回役員会は7月下旬から8月上旬の間に開催すること。

## 昭和27年5月分入退会報告(5.1~5.31現在)

1. 入	会	230名(特3, 正12, 准28, 学187)
2. 退	会	25名(正5, 准19, 学1)
3. 転	格	15名(准より正12, 学より准2, 准より学1)

## 会 員 現 在 数 (27.5.31現在)

名誉員	賛助員	特別員	正員	准員	学生員	合計	増加数
16	16	240	4603	5257	1041	11178	205

昭和27年6月10日印刷 土木学会誌 定価 100円

昭和27年6月15日発行 第37巻第6号

編集兼発行者	東京都千代田区大手町2丁目4番地	中川一美
印刷者	東京都港区赤坂溜池5番地	大沼正吉
印刷所	東京都港区赤坂溜池5番地	株式会社 技報堂

東京中央局区内千代田区大手町2丁目4番地 電話和田倉(20)3945番

発行所 法人土木学会 振替東京16828番